

降の協力の在り方について検討を行い、当機構にとって重要な研究課題であり、かつ IARC との協力によってのみ達成可能な研究テーマの計画・立案を開始した。

- ・ 国際太平洋研究センター (IPRC: International Pacific Research Center) との研究協力に関する共同研究協定に基づき、JAMSTEC-IPRC Initiative (JII) の 7 つの研究課題において共同研究を実施するとともに、同協定に基づく運営委員会を平成 24 年 5 月に開催し、研究協力活動全般の運営・進捗等を確認した。平成 25 年度で協力協定期間が終了するため、研究成果報告会を開催するとともに、平成 26 年度以降の協力の在り方について検討を行い、当機構にとって重要な研究課題であり、かつ IPRC との協力によってのみ達成可能な研究テーマの計画・立案を開始した。
- ・ 新規の協力としてカナダ天然資源省 (NRCan) 及びニュージーランド国立水圏大気研究所 (NIWA) と研究協力協定 (MOU) を締結した。平成 24 年 6 月に韓国海洋研究所 (KORDI) 及び 11 月に米国海洋大気庁・海洋大気研究局 (NOAA/OAR) と協定に基づく定期協議を実施した。協定に基づく人材相互交流の一環として、米国 NOAA/OAR、仏国立海洋開発研究所 (IFREMER)、豪連邦科学産業研究機構 (CSIRO) に事務職員を派遣した。
- ・ 仏 IFREMER、米国 NOAA/OAR との研究協力協定を更新した。米国 MBARI、TAMU、韓国 KIGAM との研究協力協定更新については現在調整を行っている。
- ・ IOC 協力推進委員会を開催するとともに、同委員会に設置された海洋情報・データ分野、西太平洋海域小委員会 (WESTPAC) に関する 2 つの専門部会をそれぞれ開催し、各専門分野における専門家による意見交換を実施した。また、国際的な動向を把握し、世界の海洋研究の発展に貢献するため、国際課職員 1 名を平成 25 年 1 月より 2 年間、IOC 本部 (仏国パリ) へ派遣を開始した。さらに、各条約に関する最新の情報を収集し、機構の調査観測が適切に実施できるように対応するための体制を整えている。

2. 研究開発成果の普及及び成果活用の促進

(1) 研究開発成果の情報発信

- ・ 研究開発の成果として、以下の発表を行った (各研究領域・センター合計数。論文、誌上発表は印刷中を含む。)

査読付論文	英文: 704、和文: 115 (平成23年度 英文: 910、和文: 78)
その他誌上発表	英文: 57、和文: 134 (平成 23 年度 英文: 101、和文: 183)
学会発表	国際: 1,098、国内: 1,044 (平成 23 年度 国際: 1,256、国内: 1,225)

(論文査読付割合: 約 81%)

- ・ 機構独自の査読付き論文誌「JAMSTEC-R」については、第 15 巻及び第 16 巻を発行し、査読付き論文誌に刷新した第 8 巻以降については、従来のインターネットでの公開に加え、平成 23 年度より JST 提供のシステム J-STAGE にて電子ジャーナルの公開を開始している。平成 24 年度は J-STAGE のバージョンアップにも対応し、今後はさらなる可視性の向上が見込まれる。
- ・ 機構内外に向けたシンポジウム、研究成果発表会等を計 305 件開催した。平成 24 年度研究報告会「JAMSTEC2013」を開催し、441 名の来場があった。第 11 回産学官連携推進会議等、国内の産学官連携イベントの共催等を行うとともに、イベントへの出展を通じ機構の研究成果を発信した。